

### 簡易型診療情報提供書活用による受療促進に向けた研究

研究分担者：本田 浩一 大分大学医学部消化器内科 講師  
研究協力者：遠藤 美月 大分大学医学部附属病院肝疾患相談センター助教  
研究協力者：荒川 光江 大分大学医学部消化器内科 助教

**研究要旨：** B型肝炎・C型肝炎治療の非専門医と専門医の診療連携のための簡易型診療情報提供書を、大分県医師会を通して大分県内約 1000 の医療機関に配布した。その後、簡易型診療情報提供書について、113 名の医師のうち 21 名（18.6%）の医師から知っているという回答を得た。1 回の配布で、約 5 人に 1 人の医師に知ってもらうことができたという結果より、ウイルス肝炎診療における非専門医と専門医との診療連携を推進していくにあたり、有用な手段であると考えられた。

#### A. 研究目的

近年、B型肝炎やC型慢性患者に対する抗ウイルス療法が進歩し、ほとんどの患者の肝炎鎮静化あるいはウイルス排除が可能となった。一方、ウイルス検査が陽性であっても有効な治療を受けていない患者も多い。ウイルス性肝炎検査陽性者が非肝臓専門医を受診することもあるが、抗ウイルス治療は近年急速に進歩しており、非専門医による治療方針の決定が困難なことがある。そのため、抗ウイルス治療に精通した肝臓病専門医との診療連携が重要と思われる。

今回、肝炎ウイルス陽性者の受療を促進するために、非専門医と専門医の連携を強化するためのツールとして、簡易型診療情報提供を作成し、診療連携における有用性について検討した。

#### B. 研究方法

非専門医と専門医との連携のため、本研究班の名古屋市立大学での簡易型診療情報提供書によるシステムを、大分県でも導入した。まず、大分県福祉保健部健康づくり支援課および大分大学医学部附属病院肝疾患相談センターより、大分県医師会に B型肝炎・C型肝炎診療連携のための診療情報提供書の配布を依頼。その後、大分県版簡易型診療情報提供書を医師会から、大分県内約 1000 の医療施設の医師に送付した。その後、県内 113 医療施設の医師における簡易型診療情報提供書認知度や専門医への紹介状況について調査した。

B型肝炎診療情報提供書 年 月 日

紹介先医療機関 病院 科

先生 紹介元医療機関の所在地  
名称  
電話番号  
医師氏名 印

患者氏名 性別 男・女  
患者住所 電話番号  
生年月日 年 月 日  
年齢 歳

傷病名  
・B型肝炎  
・その他の病名 ( )

紹介目的 (□にチェックしてください)  
 B型肝炎の抗ウイルス治療適応の判断および治療における診療連携  
 follow upに関する助言  
 症例経過および検査結果

HBe抗原 陽性  
HBe抗体 (リアルタイムPCR法) \_\_\_\_\_ log IU/ml (測定していなければ記入不要です)  
現在の処方

抗ウイルス治療が必要な場合の治療および治療後のfollow upに関する希望  
 治療およびfollow upとも紹介先に任せる  
 自院で治療およびfollow upを行う  
 紹介先と自院で連携して治療およびfollow upを行う  
 紹介先で治療を開始し、治療継続およびfollow upは自院で行う  
 その他 ( )

備考

C型肝炎診療情報提供書 年 月 日

紹介先医療機関 病院 科

先生 紹介元医療機関の所在地  
名称  
電話番号  
医師氏名 印

患者氏名 性別 男・女  
患者住所 電話番号  
生年月日 年 月 日  
年齢 歳

傷病名  
・C型肝炎  
・その他の病名 ( )

紹介目的 (□にチェックしてください)  
 C型肝炎の抗ウイルス治療適応の判断および治療における診療連携  
 follow upに関する助言  
 症例経過および検査結果

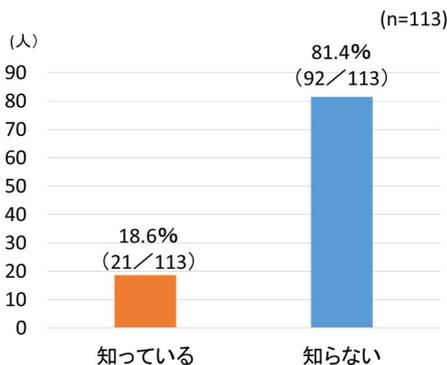
HBe抗原 陽性  
HBe抗体 (リアルタイムPCR法) \_\_\_\_\_ log IU/ml (測定していなければ記入不要です)  
現在の処方

抗ウイルス治療が必要な場合の治療および治療後のfollow upに関する希望  
 治療およびfollow upとも紹介先に任せる  
 自院で治療およびfollow upを行う  
 紹介先と自院で連携して治療およびfollow upを行う  
 紹介先で治療を行い、follow upは自院で行う  
 その他 ( )

備考

### C. 研究結果

県内の非肝臓専門医における診療情報提供書認知率



簡易型診療情報提供書について知っている  
と答えた医師は 113 名中 21 名 (18.6%)  
であり、知らないと答えた医師は 92 名 (81.4%)  
であった。知っている  
と答えた 21 名のうち、実際に紹介した  
ことがあると回答した医師は 0 名  
であった。また、肝臓専門医 14 名に  
この簡易型診療情報提供書で紹介さ

れたことがあるかについて聞いてみたところ、紹介を受けたことがあると回答した医師は 2 名 (14.3%) であった。

### D. 考察

簡易型診療情報提供書を送付することによる、認知率は 18.6% であった。1 回の送付で約 5 人に 1 人の医師にこの診療情報提供書について知ってもらうことができたということは、ある一定の非肝臓病専門医に診療連携のツールについて知ってもらえたという点において、有効であったと考えられた。近年、中核病院や拠点病院における、肝炎患者拾い上げ活動が高まり、多くの病院で非専門医と専門医の連携システムが構築されるようになったが、肝炎検査陽性者は小規模な医療施設や診療所を受診することも多いため、これらの医療機関における非専門医と専門医の診療連携を推進していくことが重要であると考えられる。簡易型診療情報提供書はウイルス肝炎診療連携を進めて行く上で、まず、認知度の向上のためには役に立つツールであると考えられた。

### E. 結論

簡易型診療情報提供書を県内の医療機関に配布し認知率の調査を行った結果、約 5 人に 1 人の医師がこの診療情報提供書について認知していることが判明し、非専門医と専門医の診療連携のために有効なツールであると考えられた。

## **F. 政策提言および実務活動**

### **< 政策提言 >**

簡易型診療情報提供書は肝臓病非専門医にウイルス肝炎患者の診療連携の必要性について知っていただくための有効な手段であると考えられる。

### **< 研究に関連した実務活動 >**

拠点病院や県内の中核病院における肝炎患者の拾い上げシステムの構築

## **G. 研究発表**

なし

## **H. 知的財産権の出願・登録状況**

### **1. 特許取得**

なし

### **2. 実用新案登録**

なし

### **3. その他**

なし